

デンマーク・オレロップ体育アカデミーと 自由学園の交流（その1） —学校設立と交流の歴史—

早野曜子

（自由学園最高学部，自由学園国際化センター）

原稿受付 2020年11月10日；原稿受理 2021年1月7日

International school relations between Gymnastikhøjskolen i Ollerup and Jiyu Gakuen since 1931 Part 1: Founding of the Schools and the History of Exchange Activities

Yoko HAYANO

Jiyu Gakuen College, Jiyu Gakuen International Centre

2020年5月1日にデンマークにあるオレロップ体育アカデミー（旧称：オレロップ国民高等体操学校）が創立100周年を迎えた。1920年に創立されたオレロップ体育アカデミーと1921年に創立された自由学園は1931年以来90年に亘り学校間交流が続いている。デンマークのフォルケホイスコーレ（国民高等学校）として創立されたオレロップ体育アカデミー（以後オレロップ）と自由学園の教育理念を検証すること、学園生のオレロップへの留学経験がその後の人生にどのように影響しているか、また90年間の国際交流の変遷・今後の課題について留学生へのアンケートとインタビューから検証する。本稿「（その1）—学校設立と交流の歴史—」では、オレロップ体育アカデミーおよび自由学園の創立の背景と教育理念、またデンマーク留学について歴史の変遷を概観する。

KeyWords: デンマーク，フォルケホイスコーレ，オレロップ，自由学園，ニルス・ブック，羽仁もと子，羽仁吉一，デンマーク体操，キリスト教，生きた教育

1. 問題の所在

1.1 【背景】

オレロップと自由学園の90年に亘る交流で自由学園からオレロップへ留学した学生数は60名にのぼる。またオレロップ体育アカデミーからは1934年に卒業生のミス・クローン（Litten Krohn）が体操指導者として来校したのを始め、2003年からはオレロップ-自由学園で新たな交流制度が整い、毎年9月から3ヶ月間オレロップを卒業した若手指導者2名が来校し2019年まで17年間で34名が自由学園に来ている。国家間では、2017年に日本・デンマーク外交樹立150周年を迎えた。90年に及ぶデンマークとの交流は、オレロップ体育アカデミーにとどまらず、デンマークへの夏季研修旅行やエグモントホイスコーレとの交流など徐々に広がりを見せている。今日急速に進む国際化は留学を取り巻く環境の変化、国連が提唱するSDGsなど17の課題を含み、地球規模の問題解決について国を超えて取り組まなくてはならない問題を抱えている。

90年に亘る交流については、これまでデンマーク体操の歴史の文脈で語られることはあったが、教育理念や留学経験者の視点で纏められたものはない。

オレロップ体育アカデミーおよび自由学園の教育理念を検証し、これまで続いてきた交流を歴史的に振り返ると共

に、留学経験者からのアンケートへの回答を基に、国際理解・多文化共生の社会に向けた交流のあり方を検討する。

そこで本稿を含む2つの論考では

- (1)両校の設立背景と教育理念との90年間の交流史、共通する教育理念
- (2)留学生の国際理解の変遷と国際理解教育の課題 について論証する

2. 歴史と教育理念を振り返る

2.1 【デンマークの歴史とフォルケホイスコーレ】

オレロップ体育アカデミーはフォルケホイスコーレ（国民高等学校）として創立された。フォルケホイスコーレの成り立ちを知る上で、デンマークの歴史的背景について概要を知ることが不可欠である。

2.2 【デンマークの歴史】

デンマーク王国（Kingdom of Denmark）は北ヨーロッパに位置し、ユラン半島と周辺470の島々からなる立憲君主制国家である。現在の国土面積は43.094km²ほぼ九州に相当（ただし、フェロー諸島とグリーンランドを除く）、人口は約580万人（2019年）で兵庫県とほぼ同じ、国教はキリスト教（福音ルーテル派）である。

16世紀のデンマークはノルウェー、アイスランドなどを有した大国であったが19世紀ナポレオン戦争ではフランス側で参戦したため1814年にノルウェーを失った。1864年には、ビスマルクが率いるプロイセン・オーストリア軍（ドイツ連邦）との戦いに敗戦し同君連合を結んでいたシュレスビー公国（Slesvig）、ホルスタイン公国（Holsten）、ラウエンボー公国（Lauenborg）を失った。敗北と残された不毛な土地を前に意気消沈するデンマーク国民は「外で失ったものを内に取り戻さん」¹を合言葉にエンリコ・ダルガス Enrico M. Dalgas（1828–1894）²が地道な農地改革を実行し、農業国として復興した。

2.3 【Folkehøjskole フォルケホイスコーレ（国民高等学校）】

フォルケホイスコーレは牧師、歴史家、詩人であるニコライ・F・S・グルントヴィイ Nikolaj F. S. Grundtvig（1783–1872）の思想を基に作られた成人教育の学校である。

フランス革命の流れはデンマークに及び、1848年に絶対王制を廃止し、立憲君主制へと移行した。農業国として復興する中で、グルントヴィイは国民の75%を占める農民が民主主義を維持していくには「良き社会を支えるフォルケ（民衆）のホイスコーレ（学校）」が必要であると考えた³。ラテン語など「死んだ言葉」を習うのではなく、自国の歴史・文化を「生きた言葉」で語り合う学校を目指した。フォルケホイスコーレは一切の試験を廃止し、17歳半以上であれば誰でも入学できるが卒業しても資格は出ない。全寮制で生活を共にし、対話を通し良き市民を育てることが目的である。1844年にRødningに最初のフォルケホイスコーレが設立された。その後、1864年の屈辱的な敗戦によって大きな勢力範囲を失ったデンマークでは国民意識の向上が求められた。その啓蒙教育に於いてフォルケホイスコーレは大きな役割を担った。フォルケホイスコーレにおける啓蒙教育の概念は、共同体としての国と国民、そして共同体を結びつけるもととしての言語と歴史という考えに深く根付いていた⁴。

グルントヴィイの思想を教育で実践し現在のフォルケホイスコーレの形を作ったのがクリステン・コル⁵である。グルントヴィイの詩にメロディをつけ、毎朝の集会で歌を歌うことによってフォルケホイスコーレの精神が引き継がれている。現在でもホイスコーレ・ソングボー（歌集）は更新されながら歌い継がれている。フォルケホイスコーレが1864年の敗戦から国家の復興を担う国民を育てるという役割から今日成人教育として個人の人格形成を担う教育機関として役割が変化してきた。

1924年にアスコフ国民高等学校へ留学した平林広人⁶によると1925年にあった55校中21校が廃止となり、新たに25校が設立され1955年には59校であった。現在は約70校ある。全寮制であること、集会では必ず歌を歌うこと、デンマーク語、歴史、音楽(歌)美術など共通で行われる授業の他、各学校特徴ある教育を行なっている。

オレロップのコースを終えた者は、体操を通して地域奉仕するOllerup Delingsfører OD（特志体操指導者）が与えられるが、これは他に有効な資格ではなく、同窓という意味が強い。

期間は秋コース（8月–12月）春コース（1月–6月）に分かれており、両方取る人も多い。また学校がない期間は短期コースを設け、家族一緒に学べるファミリーコース、シニアコース、赤ちゃんと親コースなど学校の特徴に合わせ、広い年代が学べるようになっている。学校の規模により異なるが、人口582万人⁷のデンマークにおいて年間を通じ修了者が輩出されているフォルケホイスコーレの教育理念はデンマーク国民に深く根づいている。

2.4 【Gymnastikhøjskolen i Ollerup オレロップ体育アカデミー（旧オレロップ国民高等体操学校）】

オレロップ体育アカデミーは、ニルス・ブック Niels Bukh（1880–1950）により1920年5月1日に創立された。ニルス・ブックは1880年に生まれ、4歳から父が働くヴァレキルデ Vallekilde の国民高等学校で育った⁸。同校にはデンマーク最初の民衆体操場があり、彼は当時行われていたスウェーデンのリング体操⁹を身近に育った。こうした背景からブックは幼少期から体操指導者として青年教育を志した。ブック自身が1912年スウェーデンで行われたオリンピックのデンマーク体操チームのリーダーとして出場するなど体操の才に恵まれていた。当時農業国であるデンマークでは農作業などの重労働により生じる身体の偏りや障害などが青少年に生じていた。ブックは歪んだ身体を柔軟で偏りのない健康な身体に育むこと、またフォルケホイスコーレ精神である生活と対話を通し、よき成人を育むことを教育の目的とした。開校式でニルス・ブックの師であるクヌッセン¹⁰「ダルガスは“外で失ったものを、内に取り返せ！””といっているが、この国民高等学校は、内なる精神を盛んにすると共に、その容器である身体を十分に鍛えて、全人格を完成させるところである。」と祝辞を述べている。

ニルス・ブックが考案した「基本体操」は生理学・解剖学に根ざしたスウェーデン体操を基に、それぞれの動きが律動的に連続し自然に動けるように考えられ、柔軟性・強壯性・巧緻性を育む内容であった。学校は、夏季（5–7月）の3ヶ月は女子、冬季（11月–3月）の5ヶ月は男子の為に開校された。

ニルス・ブックはオレロップが創立された翌年からデンマーク国内に留まらず、国外での演技発表を活発に行った。

1922年ノルウェー体操祭参加などヨーロッパ内で演技発表を行い、1923年にはアメリカ、1931年に日本を含む世界ツアー、1939年に南アフリカにも遠征を行っている。1925年、当時アフコス国民高等学校に留学中の平林がオレロップにニルス・ブックを訪ねた際、ブックは「日本のジュードゥ、ケンドゥを実地で研究する機会を得たい（中略）ぼくが知りたいのは日本のブドウで武術ではない。“道”は精神で根本的なものであり、“術”は技法で変化するものだ。ぼくの基本体操に日本の精神を、日本の精神にぼくの基本体操を取り入れたら、お互いに助けあっていっそう優れたものにしていける」と日本へ行くことを熱望していたと記されている。また1931年の遠征後にはブックがオレロップ学校だよりも「私の望みは、この学校を全世界の青年たちのための最も美しい、また良き会合の場所として、彼らが喜び勇んで正しい訓練のために集まる道場にするることである。そうして全世界にゆきわたって、全人類共同の文化と平和を推進していく強烈な石を鍛えるところにしたい」と記している。

創立者ニルス・ブック亡き後、2020年まで3名が校長を担ってきた。

アーネ・モルテルセン（1950–1976）

グナー・B・ハンセン（1976–1998）

ウフェ・ストランビュー（1998–2020）

夫々の時代で社会情勢の中で学校が担う役割が変化してきた。

詳しくは次稿に記すが特記すべきは、4校長の全てが自由学園に来校され当時の学園長と直に交流していることである。

2.5 【自由学園】

自由学園はジャーナリストの羽仁もと子（1873–1957）羽仁吉一（1880–1955）により1921年4月15日に7年制の女学校として創立された。羽仁もと子は「教育の目的は真の自由人を作り出すこと」¹¹とし、「自分の日常生活に必要な労力を直接にみずから生産し、そしてその生産の価値と苦楽を本当に知る人を作りたい。それが人間建造の実際的基礎である」と記している。また「自由学園には先生はありません。おとなも子供も皆お互いの長所を学びましょう。

ただ一人ここに変わることのない先生がいます。それはキリストです。（中略）自由学園においては、言論思想信仰その他何ごとについても個人の自由を尊重します。（中略）この立場をもとにして、我々はもっとも自由に思考し、研究し、経験してゆきましょう」と述べている。「先生も皆さんにものを教える機械ではありません。それで「人間」教師と「人間」生徒との交渉があります（中略）教師も生徒ももうっかりして、死んだ知識の注入をしたり、されたり強いてはならないのです」と書かれている。

大正10（1921）年当時、成蹊小学校、成城小学校など大正デモクラシーの発展段階に創立された学校では、大正自由体育が実践されていた¹²。成城小学校の島田正蔵¹³は文部省が採用したスウェーデン体操は生理学・解剖学を基に合理的に組織された運動であったが、発育期の児童の身体を運動機能の発達のみと考えられた運動は人間を機械化し、方法のみに囚われた様式であると批判し、自然の中で遊戯を通して心身を使った遊戯運動を実践した。このような時代背景の中で自由学園が創立された。羽仁夫妻は学校創設以前から運動を行うことを推奨し、自身の出版社である婦人之友社の敷地にテニスコートを有し社員と汗を流していた。創立時は米国人のミス・ハイヤドルが体操指導に当たった。

1929年には三橋喜久雄が体操教員に就任した。三橋は高等師範学校教授として1921年から24年まで文部省海外留学生として、アメリカ、ヨーロッパに留学しており、スウェーデン留学中にオレロップへ1週間滞在し、ニルス・ブックの人柄と体操に深く感化された。帰国後、「体操即生活、生活即体操」と考えた三橋の体操理念はスウェーデン体操から離れ、三橋体操研究所を設立、「生命体操」として全国で講演会を行い普及に努めた。

三橋の後任として1931年4月には柳田享（YMCA 体育主事）が自由学園に着任した。柳田は1927年から1929年にかけてオレロップへ留学しており、デンマーク体操を学園に紹介した最初の教師である。1935年男子部が開学した後は体操指導には廣田兼敏（当時YMCA 同盟）、山田貞雄（当時横浜YMCA 体育主事）が順次担当した。柳田と同じく、オレロップ国民高等学校の卒業生の山田は戦前最後の日本人留学生であった¹⁴。

創立者の羽仁吉一もニルス・ブックと同じ1880年に生まれた。デンマークと日本と遠く離れた場所でありながら、同年齢の2名が、若者の教育という同じ志を持ち1年違いで学校を創立したことは2校の交流の源として偶然ではあるが意義深い。

3. 両校の交流史

90年に亘る交流について、主に世界の情勢と日本経済の変遷を軸に時代区分をする。

3.1 【1931-1940 第2次大戦前】

上記のように自由学園に最初にデンマーク体操を紹介したのは柳田享であった。1931年9月にはブック率いるオレロップ体操チーム26名が来日し、全国40カ所で演技発表を行った。一行を日本へ招聘する為に尽力したのが、三橋氏と玉川学園を創立した小原國芳氏¹⁵であった。当時文部省は1913年に発布した学校体操指導要目でスウェーデン体操を採択していた為、デンマーク体操チーム来日には消極的で、あくまでも「社会体操」として受け止めようとしていた。小原氏を委員長とする招聘チームの招きにより、YMCA、日比谷公会堂、玉川学園、成城学園、自由学園などで演技発表を行った。9月15日池袋にある自由学園の校庭で行われた体操演技を観た羽仁吉一・もと子はニルス・ブックの体操に感激すると共に理念に共感し、自由学園の身体教育に取り入れることにした。翌1932年にニース（仏）で行われた教育会議に出席した羽仁もと子はその帰途オレロップを訪問した。ニルス・ブックの教育を見学した羽仁もと子は帰国後、女子部卒業生の2名（立祥子・船尾信子）を留学させることにした。1934年には玉川学園など私立学校がオレロップ卒業生ODのミス・クロウンを招き、彼女は自由学園でも体操指導をした。その1934年から1年半、立・船尾両名は初の日本人女子留学生としてマルセイユ経由で航路デンマークへ留学した。松野（旧姓船尾）は「13か国から集まっていた生徒たちも、大部分の人が日本と言えば富士山くらいしか知らず、日本は竹と紙でできた家に住み、小さい足でチョコチョコ歩いている位に思っていたらしかった。」と書いている¹⁶。留学中は5月-7月の女子コース、8月には外国人教師のためのコース、11月-3月は男子コースに参加し、学校のない間にはイタリアへの演技発表に同行した。

1931年9月にシベリア経由で来日したニルス・ブッカー一行は国内40カ所で演技公演をした。すでに満州事変が勃発しており、10月12日海路アメリカ経由で帰路についた。

1939年にはヨーロッパでは第2次世界大戦が始まる。国際情勢は難しくなっていたが3月に帰国した駐日デンマーク大使アール・ベルトーシュ・リーヌ男爵から自由学園にそれまでのデンマーク体操普及の功績として銀杯が贈られ、また後任のティレッツェ大使も同年6月に自由学園を家族で訪問している¹⁷。第2次大戦中デンマークはドイツに侵略されオレロップもドイツ軍に接収され爆撃を受けている。

3.2 【1953-1970 戦後から日本経済高度成長前期】

1953年、戦後初の日本人留学生として男子部卒業生の羽仁淳がオレロップへ留学した。神戸からマルセイユ港まで6週間かけ、その後陸路でデンマークへ向かった。11月-3月の冬季コース全114名中、留学生は6か国17名であった。「戦後8年しか経ておらず、外貨の持ち出しが厳しく滞在期間1年9ヶ月の内、費用を支払ったのは5ヶ月分で後はオレロップで働きながら学んだ¹⁸」と記している。帰国後の成果発表では一人で歌を歌いながら入場して演技し、デンマークの男子体操を披露した。羽仁吉一は羽仁淳の帰国後「羨むべき教育風景¹⁹」という文章でデンマークのフォルケホイスコレの教育について書き残している。羽仁淳に続き、1965年11月から1966年4月まで菊池昭一郎がオレロップへ留学した。こうして女子部で松野（船尾）と増田（立）、男子部で羽仁淳、初等部で菊池昭一郎と、自由学園卒業生がオレロップへ留学し学園の体育教育の基を築いた。

1970年4月29日大阪万博の為に来日したデンマークナショナルチームの女子15名が自由学園に立ち寄り、演技発表を行なった。

3.3 【1971-1989 日本経済安定成長期】

1970年代は大阪万博から高度成長が続いた。1971年にはそれまで、1ドル360円の固定相場から変動相場となり、1985年のプラザ合意後円高ドル安が急速に進んだ。

この間、女子卒業生16名が留学している。16名の留学時平均年齢は20歳。その中の1/4の4名がデンマーク人と結婚している。また女子部体操指導をしてきた松野（船尾）の引退後、留学した内の5名が母校の体操指導に関わっている。デンマークからは1972年にヴィボー体操学校チーム、1975年にオレロップエリートチームが来校、演技発表を行なった。オレロップエリートチームの来校は1931年以来44年ぶりであった。

3.4 【1990-2002 ベルリンの壁崩壊と日本経済バブル崩壊】

この13年の間に男子3名女子15名が留学している。体育教師として留学した2名（早野・佐藤）、最高学部在学中に留学した2名（山下、鬼木）、卒業後留学生11名と留学年齢も幅が広がってきた。デンマークからは、1995年にスベンボーチーム（青年チーム）が来校、1997年には、22年ぶりにゴナ・ハンセン校長率いるオレロップエリートチームが来校した。ゴナ校長は羽仁淳と同期でルームメイトであり、同じエリートチームのメンバーでもあった。その後、1999年（青年チーム）2000年（中高年チーム）とオレロップ卒業生が率いているチームの来校が続く。2001年にはオレロップの理事メンバーが学園を訪問し学園教育を見学した。2002年に再びオレロップエリートチームが来校。体操会前1週間滞在しその年の体操会では、デンマークチームと自由学園の全生徒・学生と一緒に最後にフィナーレの演技発表を行なった。様々なデンマーク体操チームの来校やオレロップエリートチームとの合同演技発表は全校生徒にとりデンマーク体操だけでなく海外を身近に感じる機会となった。

3.5 【2003-2010 オレロップ・自由学園交流制度】

2003年からオレロップではコース終了後、海外でデンマーク体操を教えるプログラム（Teaching abroad）が始まり、自由学園も受け入れ先となった。デンマークから来る体操指導者（男女各1名）は9月から11月末まで滞り、10月に全校（幼児生活団～最高学部）で行われる体操会では、男子部中等科・女子部高等科2・3年、学部全員の体操のプログラムを担当する。体操会終了後は、中等科・高等科・最高学部の体育授業を英語で指導し、幼児生活団

や初等部（小学校）の児童に、また地方にある全国友の会（学園関連団体）の友の家（支部）へ行き幼児や保護者に、体操やデンマークの紹介などしている。女子は最高学部女子寮に滞在し、滞在中はデンマークのクリスマスなどデンマーク文化を教えるなど体操以外にも生徒と交流した。この8年間で16名の体操指導者が来校している。オレロップは2005年から海外からの留学生のためにINTAC（The International Academy of Physical Education in Ollerup）を開設した。2003年から2010年まで自由学園から10名が留学している。2005年にはデンマークから2チームが来校し演技発表を行い、2006年、2010年にはオレロップエリートチームが来校して演技発表を行なった。

3.6 【2011-2020 デンマークとの更なる交流の広がり】

2011年2月にはデンマークナショナルチームの東京公演が自由学園で開催された。同年夏からは女子部有志による「デンマークに学ぶ会」が夏季デンマーク研修旅行を開始した。約2週間オレロップの寮に宿泊し、デンマークの教育・福祉・環境への取り組みを学ぶ。2014年からはデンマーク体操指導者として2007年に来校していたアナスの勤務するラナムエフタスコレ（15-16歳の生徒が1年間全寮制で学ぶ学校）の生徒が日本への修学旅行で自由学園に寄り、高等科2年生と1日交流を始めた。

2015年10月、オレロップエリートチームが来校し、初等部の体育教師が考えた体操を初等部と合同で発表した。

2016年4月にはエグモントホイスコーレ（Egmont Højskolen）の42名が修学旅行で来日。学園に宿泊し学部生と交流した。障がい者と健常者が共に学ぶ学校であるエグモントには2020年までに学部生2名と卒業生1名が留学している。2011年から始まっていた夏季デンマーク研修旅行は2016年から学校主催行事として男女高等科・学部生が参加するプログラムとなった。Christiansen 万規子氏（1972年にオレロップ留学、在デンマーク）の協力により、ニールスポーア研究所見学やアレロッド高校（Allerød Gymnasium）との交流、コペンハーゲンにあるUN City（国連施設）の見学など行なっている。また2017年からはエグモントホイスコーレに行き交流を始めた。

こうした交流の広がりを受け、2016年から最高学部では第2外国語としてデンマーク語講座を開講している。また2016年にはオレロップ奨学金制度ができ、デンマークへ留学する学生対象にオレロップから奨学金が給付されることになった。

日本・デンマーク外交樹立150年を迎えた2017年の体操会では「自由学園とデンマークの交流史」を展示。翌2018年の体操会には駐日デンマーク王国のフレディ・スヴェイネ大使が体操会を見学された。

2011年から2020年まで自由学園から11名がオレロップへ留学している。デンマークからは2011年から2019年まで18名の体操指導者が来校している。2020年は新型コロナウイルス感染拡大の為、オレロップ体育アカデミーが3月から6月まで閉鎖。指導者選考自体できない状況となった。自由学園から参加する予定だった5月1日予定していた同校創立100周年記念式典、及び6月に予定されていた国際体操祭も中止となった。

4. 両校に共通して流れる教育思想

90年に亘る学校間交流が今日まで途切れず続いている背景には、両校に共通する教育理念と教育形態の類似性が挙げられる。

4.1 【キリスト教】

デンマークの国教は福音ルター派に属するキリスト教である。2019年の調査によると実際に教会活動を行っている人は人口の3%に過ぎないが、国民の約74%がキリスト教徒とされる。

グルントヴィは40年間牧師として活動し、賛美歌も多く作った。しかし「神を賛美し、神の言葉」を語るだけの宗教ではなく「神から授かった生を人間自ら生の意味を知ること、命を輝かせることの為に宗教がある」という人間を第一義に考える思想家でもあった。フォルケホイスコーレでは宗教の自由を保障しているが、キリスト教はデンマーク文化として深く生活に根ざしている。自由学園は宗派に属さないキリスト教主義の学校として今日に至っている。デンマークが敗戦を経て、農業国として復興した経緯について日本に紹介したのは、内村鑑三であった。1911年『聖書之研究』に「デンマルク国の話」としてダルガスの業績を伝えた。それは1946年に『後世への最大遺物』と

いう著書に収められ出版された。敗戦によって荒廃した国土を開墾し農業国として復興した話は、敗戦と狭い国土の開墾と農業国という共通する状況で日本で広く世に知られることとなった。羽仁もと子は日本基督教団富士見町教会に教籍があり、内村鑑三も富士見町教会で説教などしている。1923年の関東大震災時に羽仁吉一と内村鑑三は一緒に軽井沢から帰京した記録もあり、羽仁もと子がニルス・ブックと初めて会った1931年9月の時に「デンマーク国の話」を知っていた可能性は高い。

フォルケホイスコーレでは毎朝集会があり歌をうたい、講話がある。自由学園でも朝の礼拝で賛美歌を歌い先生や生徒が語る時を持つ。語られる言葉も内容は異なるが根底には共通した思想がある。

4.2 【生きた学校（生活と学びの有機的つながり）】

オレロップは全寮制で教職員も学校内やすぐそばに住んでいる。学校の清掃は生徒が持ち場を交代しながら全員で行う。またコース終了後の長期休みではピサというプログラムがある。1953年に留学した羽仁は「4月一杯を“ピサ”の期間と言って、有志が残って冬期コースで使った所の修理や大掃除をして5月から始まる夏期コースの準備をした。労働以外に毎日体操を2-3時間した。5ヶ月の訓練を経てきた者ばかりなので、この期間の体操は一段とレベルの高いものであり、充実した時間であった」と回想している²⁰。ブックの体操は身体が柔軟で偏りのない身体になること、健康で働ける体を作ることを目的としている。自由学園も創立時から「自労自治」を標榜し、学校内を各学年自治区域として分担し、清掃管理している。また生徒同士または教師も加わり懇ろに語り合う「懇話」「懇談」という時間を設け、何かあったら話し合いで解決することを教えた。

オレロップは18歳以上が学ぶところである。自由学園は幼児生活団（4才）から最高学部（22才）までが学ぶ場所である。羽仁もと子は子供たちに「働いて健康になること 考えて賢くなること 強い身体と良い頭を使って、毎日毎日良いことをしたいと思うこと、良いことをするには骨が折れる 骨折りのきれいなものは自由学園の生徒になることはできない」と教えている。幼児に理解できる言葉で生きた言葉を語り合い、働く身体を培う教育の理念は青少年を育てる上で共通した重要な柱である。

4.3 【学校規模】

オレロップは1921年5月60名の女子コースから始まり、同年冬期コースは90名の男子が参加した。ブックの体操が評判になるにつれ希望者も増えていき、羽仁淳が留学した1953年は「114名のデンマーク人男女と17名の外国人、計131名」であった。現在も1コース約100～150名、年間で約200名が学んでいる。

自由学園は1921年4月26名、5月には59名の生徒から始まった。翌年には55名が加わり、5クラス125名となる。1931年にデンマーク体操を取り入れた玉川学園が学生数も大きく発展したのに比べ、自由学園は現在全校生徒数800名あまりである。年齢も年限も異なるが、日本の私立学校の平均生徒数に比しても約6割と少人数教育という点で共通する²¹。

4.4 【専門教育ではなく人間教育】

フォルケホイスコーレは専門家を養成する機関ではなく、人生の中で自分や他者と対話し、生き方を模索する通過点という役割がある。オレロップで体操をメインにした学びを半年から1年近くしても、その後体操の専門家となるには教育系大学と大学院に進まなければ教師の資格を取得できない。デンマークの教育制度は日本のそれとは異なるので、詳細は省略するが、入学してくるデンマーク人は周りに卒業生がいたり、小さい頃から体操を行っていて興味を持って入ってくる人、また全く体操をしたことのない人もいる。そしてたとえ体操が得意であっても、オレロップで学んだ後は、IT関係、看護師・保育士など異なる職業に就く人が大半である。来日するオレロップエリートチームは、皆体操技術の秀でた人が集まっている。鍛えぬかれた身体と卓越した能力で演技を披露するため、オレロップは“体操エリートが行く専門学校”と思っている人がいるが、オレロップは入試があるわけではないので、運動能力には幅がある。しかし上手下手でコンプレックスなどできるわけではない。上手で好きな人は下手で上手になりたい人に教える、下手で出来なくても分かったことは人に教えることが日常的に行われている。ここに体操の特徴

と他のスポーツや日本の体育専門大学とは大きく異なる特徴がある。

自由学園からオレロップに留学した人は前述したとおり、90年間で60名にのぼる。最高学部が男女共修として統合する1999年以前まで、女子は女子学部（短期大学相当）を卒業してから留学したが、女子が4年課程に進学するようになって以降は学部在学中に留学するようになった。自由学園最高学部は専門学科があるわけではなく、リベラルアーツ教育を行なっている。大学相当としてカリキュラムが組まれているが大学卒業資格を取得できるわけではない。より専門的な勉強を行うために大学院進学者も毎年いるが、就職や留学など次の段階に進む場所として最高学部とフォルケホイスコーレは共通性を持つ機関であると言える。

5. まとめ

以上、デンマークのオレロップ体育アカデミーの歴史・フォルケホイスコーレの教育・自由学園の成り立ち、そして90年間の交流史を概観し、両校に共通する教育理念や教育形態の類似点をあげた。オレロップに留学した日本人は1921年から2020年まで総計226名である。その約4分の1が自由学園の関係者であることは特筆すべきことである。留学生の国際理解の変遷と国際理解教育の課題については次回に論証する。

参考資料

2020年10月現在
制作 図書館資料室・国際化センター

年代	主な出来事	自由学園からの留学生	オレロップからの体操指導者
1920	5月1日		
1920	5月1日	オレロップ国民高等体操学校創立	
1921	4月15日	自由学園創立	
1929	9月13日	体操教員として三橋喜久雄が就任	
1931	4月	体操教員として柳田亨が就任	
	9月15日	ニルス・ブック率いるオレロップ体操学校の体操チームが来日	
1932	4月	オレロップ体操学校ODミス・クローン体操指導を開始	Litten Krohn
	夏	羽仁もと子 デンマーク オレロップ体操学校を訪問	
1934	4日2日	立祥子、船尾信子がデンマーク・オレロップへ留学	立祥子 船尾信子
1935	9月23日	立祥子、船尾信子が帰国 本格的なデンマーク体操を指導して体操会を開催	
1953 1955		羽仁淳がオレロップ体操学校に戦後初めて留学 帰国後男子部の体操を長きにわたり指導	羽仁淳
1965 1967		初等部教師の菊池昭一郎がオレロップへ留学。	菊池昭一郎
1970	4月29日	大阪万博に来日したデンマークのナショナルチームの女子チーム15人が自由学園を訪問、演技発表と交流	
1971			白石恵子
1972	10月10日	ヴィボー体操学校のエリートチームが来校、自由学園体操会で体操演技披露	倉持万規子
1974			渡辺恭子
1975	10月10日	オレロップエリートチームが来校 演技発表	仲由美
1976			今村幸子 山田智津子

1979			前田かおる	
1981			武田和恵 橋本良子	
1982			吉田なな	
1983			山本真理子	
1986			油田奈々子	
1987			石井美穂子 伊藤亮子 田村知子	
1989		オレロップエリートチーム自由学園で演技発表	山田恵子	
1991			大野曜子 加地泰子 安田典代	
1992			浅川織恵	
1993			佐藤史伸 藤倉智子 久田恵子	
1994			大津桃子 大塚華子	
1995		スベンボー体操チーム（スベンボー地域の体操チーム）が来日、自由学園で演技発表		
1996			今村美代 山下雄作	
1997	10月13日	オレロップエリートチームが来校 演技発表	川村朋子 大槻容子 吉浦亮子	
1998			有馬洋香 大熊祐唯子	
1999	10月09日	デンマークより体操チーム（地域チームの合同からなる）が来校、自由学園体操会で演技発表	屋久さくら	
2000	6月30日	中高年中心の体操チーム「からだと文化」が来校、体操を披露		
2001		オレロップ理事メンバー来校 見学		
2002	9～10月	オレロップエリートチームが来日、体操会まで1週間体操の指導を受ける 当日はエリートチームと全校生徒が共演	鬼木圭太	
2003		オレロップと自由学園との交流制度を整備 オレロップ卒業生の招聘による体操指導態勢へ		David Christensen Grevy, Malene Nielsen
2004			村松由理	Anders Mastrup, Mette Madsen
2005	07月09日	ボーリング体操学校のチームが来校、演技発表とワークショップ	俵山遥 酒本絵梨子 加藤講太郎	Henrik S. Jensen, Anna M.V. Kinoshita
	10月08日	ヴェスタロン・オングラムスコレのエリートチームが来校、自由学園体操会で演技発表		
2006	10月 25～26日	オレロップエリートチームが来校、演技発表とワークショップ	高坂彩子	Christina S. Kjeldsen, Agnete I.Larsen
2007			稲垣智恵美	Anders H. Jensen, Stinne U.M.Nielsen
2008			大塚陽	Kim Jespersen, Lisa Burr

デンマーク・オレロップ体育アカデミーと自由学園の交流（その1）

2009			岡田直子 鈴木正信	Jakob Elton Jensen, Louise E. Knudsen
2010	10月16日	オレロップエリートチームが来校、演技発表とワークショップ	大坪藍	Esben Lysemose, Sofie Rundmose
2011		夏期デンマーク研修を開始 2016年度より学校行事としてプログラム化 デンマークナショナルチーム東京公演を自由学園で開催		Peter Sabro, Maria Nebbergaard
2012				Thomas Bech Jacobsen, Marie Moeller Joergensen
2013				Kasper Linderoth, Line Nielsen
2014			藁谷智美 市川ゆり子	Kristoffer Brown, Signe Stampe Sorensen
2015	07月02日		手塚莉生 加藤小百合	Christian Mouritsen, Louise Lind
	10月10日	オレロップエリートチームが来校 体操会で演技発表 初等部との合同発表も		
	10月15日	デンマークよりボーリング体育学校の卒業生チームが来校、演技発表		
2016	04月4～7日	エグモントホイスコーレの42名が修学旅行で来日、自由学園に宿泊、大学部学生と交流 オレロップ体育アカデミー奨学金制度開始	金森麻実 竹島秀祐 吉野りべか	Mathias M. Jepsen, Rikke G. Nielsen
2017	10月07日	日本・デンマーク外交樹立150周年	須山琴美 本岡紬	Christian I. Deichgraeber, Dinne F. Andersen
2018		Real Men チーム来校	原嶋百香	Anton Sams, Sophie L. Troelsen
2019				Tonko Bossen, Rosa Sommerlund
2020			平田溪	COVID-19のため派遣中止

注

- ¹ Peter Holst (1811-1893) デンマークの詩人の詩がオリジナル
- ² エンリコ・ダルガス Enrico Mylius Dalgas (1828-1894) デンマークの工兵大尉。北海に面したユラン半島の土地を開墾、農地改革を行った。
- ³ 『生のための学校』清水満 p. 97
- ⁴ 『光を求めてーデンマークの成人教育500年の歴史』オーヴェ・コースゴー著、川崎一彦監訳、高倉尚子訳 (1999年): 東海大学出版会
- ⁵ Christen Kold (1816-1870) 師範学校卒業後、代用教員、家庭教師、3年間のトルコ滞在などを経て1851年にフォルケホイスコーレを開校。デンマーク文化を口頭で講義。オルタナティブ教育を実践した
- ⁶ 平林広人 (1886-1986) デンマーク文学者
- ⁷ STATISTICS DENMARK <https://www.dst.dk/>
- ⁸ 平林広人『人間をつくる体操』1959ベースボール・マガジン社 p. 11
- ⁹ スウェーデン体操：リングPer Henrik Ling (1776-1839) が考案した体操 人体生理・解剖学を基に医療保健を主に考えらえた合理的な運動である。日本では永井道明により1913年に文科省が「学校体操教授要目」に採用した。
- ¹⁰ Kund Anton Knudsen (1864-1949) 国立体操練習所長。クヌッセンの『体操教科書』は英訳され世界的権威書となった
- ¹¹ 羽仁もと子『教育三十年』1950 婦人之友社
- ¹² 入江克巳『大正自由体育の研究』1993 不昧堂出版
- ¹³ 島田正蔵 (1895-1960) 1925-1927成城小学校にて遊戯を取り入れた「遊戯体操」を行った
- ¹⁴ https://anser.ehoh.net/bulletin/column_05.html
- ¹⁵ 小原國芳 (1887-1977) 成城小学校を経て玉川学園を創立 玉川学園の身体教育に何が良いか三橋に尋ねニルス・ブックを紹介

される。1931年のニルス・ブック体操チーム来日に尽力し、玉川学園はオレロップ東洋分校として認められた。

- ¹⁶ 松野信子『体育の科学』第4巻・第3号(1954) pp. 123-124 体育の科学社
- ¹⁷ 自由学園『学園新聞』第112号・第114号 1939年3月, 6月 自由学園出版局
- ¹⁸ https://anser.ehoh.net/bulletin/column_05.html
- ¹⁹ 羽仁吉一『雑司ヶ谷短信(下)』1956 p. 254 婦人之友社
- ²⁰ https://anser.ehoh.net/bulletin/column_05.html
- ²¹ 文部科学省統計要覧より算出 https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1403130.htm